ひふみのあゆみ

2020年4月度

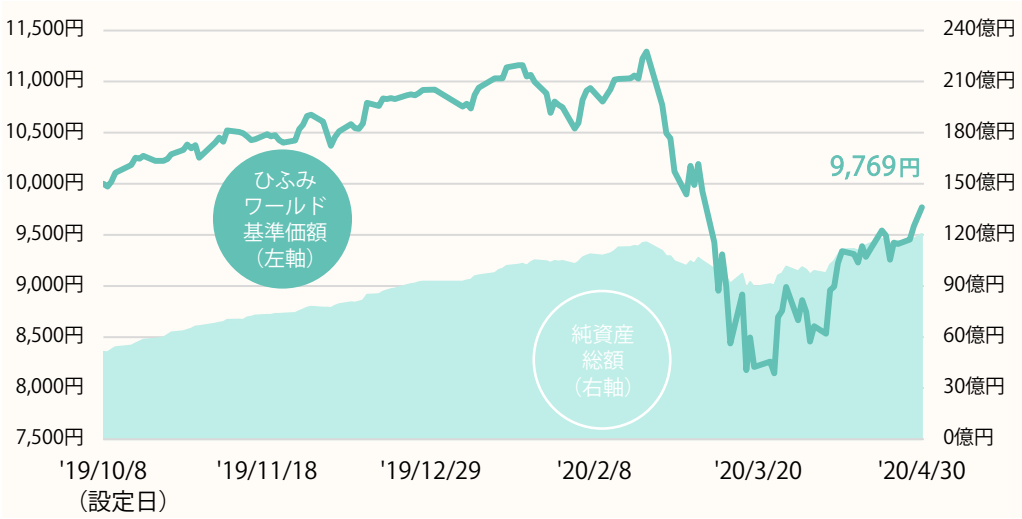
ひふみワールド　月次ご報告書

追加型投信/海外/株式

レオス・キャピタルワークスよりお客様へ
資産形成のパートナーに「ひふみワールド」をお選びいただき、ありがとうございます。
運用状況ならびに運用責任者からお客様へのメッセージなどをご報告します。

運用実績

基準価額等の推移（日次）



運用成績

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ひふみワールド	10.2%	-9.1%	-5.9%	-	-	-2.3%

ひふみワールドの運用状況

基準価額	9,769円
純資産総額	120.5億円
受益権総口数	12,343,543,883口

ひふみワールド 投資信託財産の構成

ひふみワールドマザーファンド	100.1%
現金等	-0.1%
合計	100.0%

分配の推移（１万口当たり、税引前）

第1期	2020年2月	0円
第2期	-	-
第3期	-	-
第4期	-	-
第5期	-	-
第6期	-	-
設定来合計		0円

基準価額の変動要因

基準価額変動額（月次）	+907円
〔内訳〕	
株式・投資証券	+1,060円
米国	+848円
欧州	+134円
アジア・オセアニア	+78円
その他	+0円
為替	-139円
米ドル	-115円
ユーロ	-20円
香港ドル	-9円
その他	+5円
信託報酬・その他	-13円

作成基準日：2020年4月30日

※当レポートで言う基準価額とは「ひふみワールド」の一万口あたりの値段のことです。また信託報酬控除後の値です。

※当レポートにおいて特段の注記がない場合は、基準日時点における組入銘柄比率や運用実績を表しています。また運用成績など表記の値については、小数点第二位を四捨五入して表示しています。そのため組入比率などでは合計が100%にならない場合があります。

※「純資産総額」は1,000万円未満を切捨てで表示しています。

※「受益権総口数」とは、お客様に保有していただいている口数合計です。

※「ひふみワールド」は、ひふみワールドマザーファンド（親投資信託）を通じて実質的に株式へ投資しています。

※「現金等」には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

※「基準価額の変動要因」は、月間の変動額を主な要因に分解した概算値であり、実際の数値とは異なる場合があります。また、四捨五入等の関係で、内訳の各数値の合計は「株式・投資証券」「為替」や「基準価額変動額」と合わない場合があります。「株式・投資証券」のうち、米国には米ドル建て、欧州にはユーロ、イギリス・ポンド、スウェーデン・クローナ建て、アジア・オセアニアには香港ドル建て等の株式・投資証券が含まれます。「信託報酬・その他」のその他には、設定、解約の影響などがあります。

RHEOS CAPITAL WORKS

資産配分比率などの状況

ひふみワールドマザーファンドの状況	
純資産総額	658.6億円
組み入れ銘柄数	93銘柄

資産配分比率	
海外株式	81.1%
投資証券	2.2%
現金等	16.8%
合計	100.0%

時価総額別比率	
10兆円以上	18.1%
1兆円以上10兆円未満	45.0%
3,000億円以上1兆円未満	17.1%
3,000億円未満	3.0%

組み入れ上位10カ国 比率		
1	アメリカ	55.8%
2	中国	6.2%
3	フランス	4.2%
4	イギリス	2.7%
5	ドイツ	2.2%
6	アイルランド	2.2%
7	カナダ	2.2%
8	スウェーデン	2.1%
9	香港	1.2%
10	イスラエル	1.0%

組み入れ上位10通貨 比率		
1	米ドル	67.1%
2	ユーロ	6.9%
3	香港ドル	5.2%
4	イギリス・ポンド	1.6%
5	オーストラリア・ドル	1.0%
6	スウェーデン・クローナ	1.0%
7	フィリピン・ペソ	0.3%
8	-	-
9	-	-
10	-	-

組み入れ上位10業種 比率		
1	ソフトウェア・サービス	17.6%
2	資本財	8.8%
3	メディア・娯楽	7.8%
4	各種金融	7.8%
5	半導体・半導体製造装置	7.6%
6	消費者サービス	5.9%
7	小売	5.3%
8	ヘルスケア機器・サービス	5.1%
9	食品・生活必需品小売り	2.8%
10	食品・飲料・タバコ	2.3%

※「資産配分比率」「時価総額別比率」「組み入れ上位10カ国比率」「組み入れ上位10通貨比率」「組み入れ上位10業種比率」 はマザーファンドの純資産総額に対する比率を表示しております。

※「投資証券」はREIT（不動産投資信託）等です。

※「現金等」には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

※「時価総額別比率」は基準日時点のBloombergの情報を元に作成しております。

※「組み入れ上位10カ国比率」は原則として発行国で区分しております。なお、国には地域が含まれます。

※「組み入れ上位10業種比率」は株式における上位業種を表示し、原則としてGICS（世界産業分類基準）の産業グループ分類に準じて表示しております。

銘柄紹介（基準日時点の組入比率1～10位）

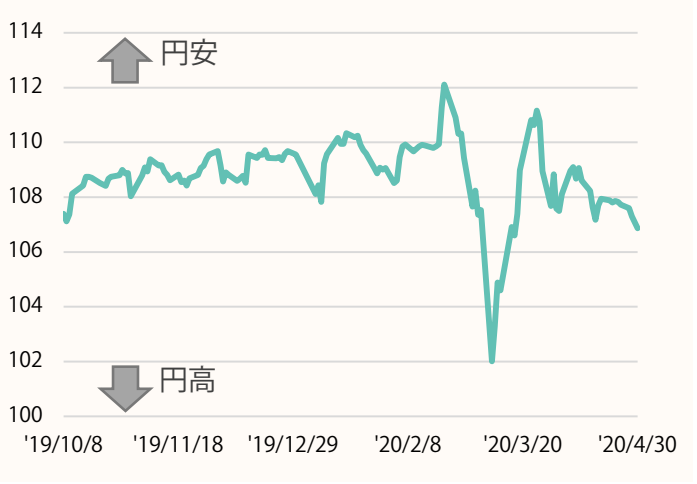
	銘柄名	国	通貨	業種	組入比率
		銘柄紹介			
1	ACCENTURE PLC-CL A	アイルランド	米ドル	ソフトウェア・サービス	2.2%
		コンサルティングサービス会社。経営・技術に関するコンサルティングサービスおよびソリューションを提供。世界中の各業種を対象とした特殊技術とソリューションに従事。			
2	TEXAS INSTRUMENTS INCORPORATED	アメリカ	米ドル	半導体・半導体製造装置	2.1%
		半導体製品設計・製造会社。アナログICおよび組込みプロセッサを開発。世界各地で事業を展開。			
3	CADENCE DESIGN SYSTEMS, INC.	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	1.8%
		ソフトウエア会社。EDAと呼ばれる半導体開発用のデザインソフトウェアの世界最大手の一角であるほか、半導体の設計とその知的財産権の販売も行なう。			
4	BJ'S WHOLESALE CLUB HOLDINGS, INC.	アメリカ	米ドル	食品・生活必需品小売り	1.7%
		米国の東海岸を中心に店舗展開する会員制ホールセールクラブ。コストコ、ウォルマート傘下のサムズクラブに次ぐ第3位。Eコマース時代でもホールセールクラブへの需要は堅調と考えられる他、店舗拡大による成長余地が大きい。			
5	QUALCOMM INCORPORATED	アメリカ	米ドル	半導体・半導体製造装置	1.7%
		スマートフォンなど通信機器に使う半導体とその周辺回路、ソフトウエアを開発する。５G対応半導体も製品化。あらゆる通信デバイスに欠かせない技術を持つ。			
6	SITEONE LANDSCAPE SUPPLY, INC.	アメリカ	米ドル	資本財	1.7%
		造園業者向けの造園用品販売会社。野外照明、肥料、草の種子、芝生ケア用器具等を米国とカナダ全土で販売し、充実した品揃えを背景に中小の販売会社からシェアを奪い店舗数の拡大を伴って成長している。			
7	GENERAC HOLDINGS INC.	アメリカ	米ドル	資本財	1.6%
		家庭用発電機メーカー。米国の災害に弱く、停電を頻発させる脆弱な電力網を背景に、緊急時のバックアップ電源を家庭向けに販売している。			
8	EDWARDS LIFESCIENCES CORPORATION	アメリカ	米ドル	ヘルスケア機器・サービス	1.6%
		経カテーテルによる心臓疾患治療のための人工弁や治療機器を開発する世界的大手。高齢化に伴い心臓疾患が外科的治療から経カテーテル治療へと移行していることが業績の追い風となっている。			
9	BROOKFIELD ASSET MANAGEMENT INC.	カナダ	米ドル	各種金融	1.6%
		資産運用会社。株や債券などの伝統的資産ではなく、流動性の低い不動産、インフラ、プライベート・エクイティ、再生可能発電セクターに注力する。世界的な利回りの低下を背景に事業が拡大している。			
10	SAP SE	ドイツ	ユーロ	ソフトウェア・サービス	1.6%
		ERP（統合基幹業務システム）の世界的大手。クラウド化で競合に先行しており順調に業績が拡大している。			

※国は原則として発行国を表示しています。なお、国には地域が含まれます。
※業種は原則としてGICS（世界産業分類基準）の産業グループ分類に準じて表示しています。
※組入比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

MSCI ACWI ex JAPAN(配当込み)(米ドルベース)の推移

当月騰落率　+11.6%

米ドル／円の推移

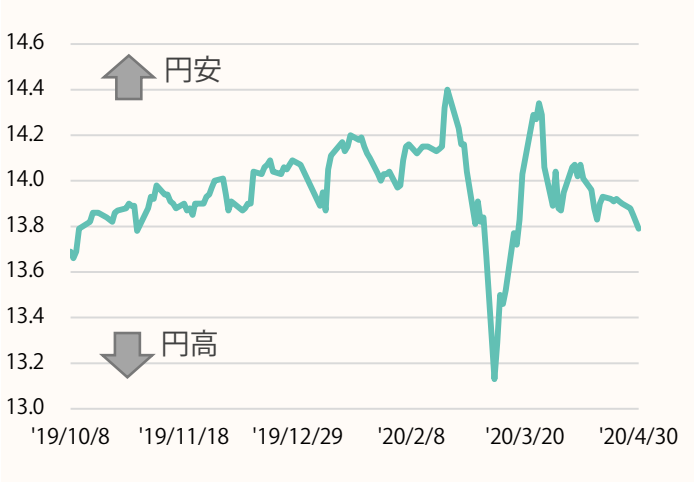


当月騰落率　-1.8%

ユーロ／円の推移

当月騰落率　-3.0%

香港ドル／円の推移



当月騰落率　-1.8%

※MSCI ACWI ex JAPAN（配当込み）はBloombergのデータを元に作成しております。なお、MSCI ACWI ex JAPANの当月騰落率は、基準価額への反映を考慮して、月末前営業日の指数値を基に算出しております。

※MSCI ACWI ex JAPANは当ファンドのベンチマーク（運用する際に目標とする基準）ではありませんが、参考として記載しています。なお、MSCI ACWI ex JAPANは配当込みで、米ドルベースです。

MSCI ACWI ex JAPANは、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国、新興国の株式を対象として算出している指数です。同指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。

※為替レートは一般社団法人 投資信託協会が発表する仲値（TTM）です。

「遠隔」支えるデジタル銘柄継続保有

一部の期待先行銘柄は売却

取締役運用本部長
ひふみワールド運用責任者
湯浅 光裕

新型コロナウイルスの影響に伴う米国ロックダウン措置から１ヶ月経った４月中旬頃、同措置への抗議デモが各地で起こり、危機対応に対する不信感が高まる瞬間もありましたが、激増していた感染者数、死亡者数がある程度落ち着いたことや、治療薬、ワクチン開発に世界各国の製薬会社が協力体制を取り、早期開発への期待が高まったことなどが市場に安心感を与えました。

ひふみワールドは生活習慣の変化をサポートする企業を保有しています。ワーク・フロム・ホーム（WFH：遠隔勤務）、ソーシャル・ディスタンシング（ある程度の距離を空けて接する）、巣ごもり消費に慣れ、デリバリーや持ち帰り消費、家庭で楽しめるエンターテイメント、遠隔授業などの新規需要を牽引しています。このような環境を支える効率的なネットワーク管理、サーバー運営、電子デバイス・サービス企業の重要性も高まっています。一方、ソーシャル・ディスタンシングの徹底でコンテンツ制作が困難になることや、無料サービスユーザー増加により収益化に時間がかかる可能性もあることから関連企業で株価上昇した銘柄の一部売却も行なっています。

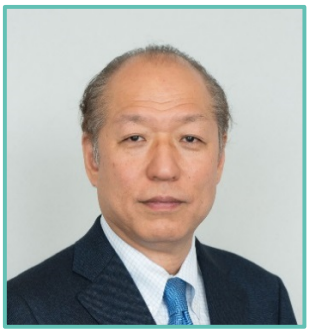
米国、ロシア、サウジアラビアのエネルギー覇権争いから原油先物価格が急落し、世界経済の先行き不透明感が高まりましたが、大型の金融・経済対策への期待が米国株式市場を支え、月末にかけ上昇しました。ウイルス発生中心地の中国では財政政策をもう一段強め、景気テコ入れに全力を注いでいます。欧州でも感染者数の増加ペース鈍化や、都市封鎖解除への期待が下支えになりましたが、欧州中央銀行（ECB）による金融支援が、ジャンク債買い入れまで踏み込んだ米国と比較し消極的なことが懸念です。

日本でも緊急事態宣言が延長され、長ければ5月いっぱい現状継続となりますが、私たちは4月から運用部1名、経済調査室1名を増員し、みな元気に調査活動等を継続しています。引き続き、ひふみワールドをよろしくお願いします。

※組入比率など運用についての記述は、すべてひふみワールドマザーファンドに関するご説明です。

※当資料では「ひふみワールドマザーファンド」のことを「ひふみワールド」と略する場合があります。

都市封鎖の段階的緩和、コロナとの共生期に移行
リアル空間から仮想・デジタル空間へコロナ禍が加速



運用本部
経済調査室長
三宅 一弘

新型コロナウイルスの感染が急拡大した欧州や米国などでは、3月から厳しい外出制限など都市封鎖（ロックダウン）がとられてきましたが、現感染者数（＝累積感染者数－累積回復者数－累積死亡者数）の拡大ペースの鈍化や急激な経済悪化（経済活動の再開要請）などを受けて、5月に入って段階的緩和に動き出しています。日本では、5月6日までの緊急事態宣言が5月末まで延長が決まりましたが、13の特定警戒都道府県とそれ以外の県では感染の状況が異なるとして、後者の感染者が少ない自治体では一部緩和に動き出しています。5月に入って、主要国の新型コロナウイルス対策に変化が出てきています。

コロナ禍の世界は時間軸でみると大きく3つに分けられると思います。第一が世界的な感染拡大期です。特効薬がない新型コロナを抑制するため、各国とも都市封鎖など人の接触や移動を厳しく制限しますが、それによって経済活動が極度に落ち込むため、過去最大規模の金融・財政政策、いわば止血策を打ち出します。3月後半～4月の欧州や米国、日本などがこれに該当します。世界経済は未曽有の速さで落ち込むなど戦後最悪の不況の様相ですが、主要国株式市場は急落の後、3月下旬に底入れし、反騰基調になりました。主因として、米国を典型に戦時体制並みの政策総動員（政府と中央銀行の強固な協調体制）や、新型コロナウイルスの感染拡大ペースの鈍化が挙げられます。

第二が感染抑制期です。対策が功を奏して感染拡大が沈静化に向かい、都市封鎖は緩和・解除に進みますが、感染拡大の再燃懸念があり、非接触（低接触）型の抑制的な経済活動が継続するでしょう。いわば「コロナとの共生期」ですが、都市封鎖が解除になっても低操業度が続きそうで、経済活動の停滞が懸念されます。日本をはじめ主要国の現状は感染抑制期の目前か、初期段階にあるとみられます。政策面では止血策の継続とともに、先行き需要刺激の造血策も打ち出されそうです。なお、感染が再拡大する場合、経済状況とのバランスを図りながら、再び外出制限などが課されるでしょう。経済活動の停滞が長引けば、高失業や企業倒産の増加、脆弱国の財政破綻懸念が高まるとみられます。株価は、経済対策やコロナ沈静化に対する期待と経済の実体悪が綱引きする構図が想定されます。

第三が克服期です。新型コロナウイルスのワクチンや特効薬が開発される、あるいは集団免疫が形成されることで、いわばアフターコロナの局面に移行できます。経済活動は本格化するでしょう。克服期までの道のりは長く険しくなる可能性もあり得ると思います。

克服期までが長期化する場合、私たちの生活をはじめ企業や政府などの行動が大きく変化すると思います。例えば、仕事や消費、娯楽、教育、医療、公共サービスなどが、「リモート・・・」や「遠隔・・・」となり、リアル空間から仮想・デジタル空間に大きくシフトしそうです。日本では諸外国に比べてネットやオンラインの活用が遅れていましたが、政府や企業はコロナ禍で、障害になっていた印鑑・紙ベース業務の一掃など、ペーパーレス化とIT基盤の強化に動き出しています。

コロナ禍は、21世紀に入って台頭してきたネット・デジタル関連産業を飛躍化させる一方で、20世紀型の伝統・リアル産業に対して重石になるなど、世界の株式市場の物色動向に大きな影響を与えそうです。2008～09年のリーマン・ショックは世界の株式市場にとって川上・コモディティ・割安株⇒川下・非コモディティ・成長株へ物色の転換点でしたが、コロナ禍は21世紀型産業を中心に後者優位の流れを一段と加速させそうです。

（5月6日）

セミナーなどのお知らせ

クリックでひふみセミナーページへ

公式ウェブサイトの「セミナー」ページで詳細のご確認やお申込みが出来ます。
このほかのセミナー日程は開催が決まり次第、公式ウェブサイトの「セミナー」ページにて随時更新してまいります。

ひふみアカデミー（月次運用報告会）

ひふみ投信、ひふみワールドの運用についてご報告するとともに、今後の経済や株式相場などの見通しについてご説明いたします。前半でひふみ投信、後半でひふみワールドをお伝えします。投資信託の運用状況について知りたいという方はもちろん、経済環境や株式市場について勉強したい、この先の経済見通しを知りたい方にお勧めのセミナーです。

【当日のスケジュール】
19:00～19:30　ひふみ投信の運用報告
19:30～19:50　ひふみワールドの運用報告
19:50～20:30　FAQ

※5月のひふみアカデミーは、
当社で「ひふみ投信」「ひふみワールド」を口座をお持ちの方にYouTubeにて限定配信いたします。
視聴用URLをご登録いただいたメールアドレスにお送りいたしますので、ご確認ください。
当社で口座をお持ちでない方は、後日配信する動画をご覧ください。
※リアルタイムチャットによるご質問も受け付けます。
その際、あらかじめYouTubeアカウント登録・ログインが必要となります。

ひふみアカデミー

ひふみアカデミー 2020年5月【動画配信】	5月14日（木） 19:00～20:30	YouTube（ライブ配信）	「ひふみ投信」または「ひふみワールド」を保有の方に限定配信URL送付
ひふみアカデミー 2020年6月	6月9日（火） 19:00～20:30	開催形式未定	開催形式は新型コロナウイルス感染状況を踏まえて検討中

動画セミナー、オンラインコミュニケーション・センターのご案内

【少人数質問会】（クラウドビデオ会議ツール「Zoom」使用、要申込み） ひふみオンラインコミュニケーション・センター	5月14日（木） 14:00～15:00	お申込みフォームは こちら
【YouTubeライブ配信】（申込み不要） はじめてのひふみ Part1「投資と投資信託を知ろう」	5月19日（火） 19:30～20:00	https://youtu.be/KNnWAv4K860
【YouTubeライブ配信】（申込み不要） はじめてのひふみ Part2「ひふみ投信とひふみワールドの特徴」	5月20日（水） 19:30～20:00	https://youtu.be/mUUvH7ftsdU
【YouTubeライブ配信】（申込み不要） はじめてのひふみ Part3「購入方法について」	5月21日（木） 19:30～20:00	https://youtu.be/LPRnaXcZm2I
【少人数質問会】（クラウドビデオ会議ツール「Zoom」使用、要申込み） ひふみオンラインコミュニケーション・センター	5月21日（木） 20:00～20:30	お申込みフォームは こちら
【YouTubeライブ配信】（申込み不要） 人生100年時代を豊かに生きるNISAの仕組みと使い方	5月25日（月） 19:00～20:00	https://youtu.be/4HFSqh0RXvw
【少人数質問会】（クラウドビデオ会議ツール「Zoom」使用、要申込み） ひふみオンラインコミュニケーション・センター	5月25日（月） 20:00～21:00	お申込みフォームは こちら

動画配信のお知らせ

レオス・キャピタルワークスの公式YouTubeでは、当社が運用・販売する投資信託「ひふみ投信」「ひふみワールド」などに関する動画を投稿しております。

ひふみの運用について報告を行なうセミナー「ひふみアカデミー」、当社トレーダーが当日の相場動向について2分程度で解説する「レオスの市況解説」、当社経済調査室長の三宅がマクロの視点から経済動向を解説する「三宅の目」、当社の経営理念などを説明する「レオスコンセプトムービー」など多様な動画シリーズを展開しております。
チャンネル登録をしていただくと、動画更新情報をリアルタイムで受け取ることができます。ぜひ登録の上、ご視聴ください！

レオス・キャピタルワークス
公式YouTube QRコード

三宅の目 「コロナ禍の経済・業績悪化の実態把握へ」	https://www.youtube.com/watch?v=uKcdqGdw0f0
動画セミナー はじめての投資信託 「ひふみ投信」「ひふみワールド」の特徴	https://www.youtube.com/watch?v=NOGNGwUho0I
三宅の目 「Withコロナ期、二極化する株式市場」	https://www.youtube.com/watch?v=EJpP3rvDGs8

お知らせ

次のステージへ ブランド一新

ひふみ投信の設定から12年目を迎える今年、ひふみは成長の決意を込めて、ロゴやデザインを一新いたします。正式なお披露目は5月中旬を予定しています。ブランド一新に合わせ、オンラインイベント「ひふみフォーラム2020」を5月24日（日）13時より開催いたします。ゲストの皆様やお客様とともに次の時代のあり方を考え、学び、語り合う機会としていけたらと考えています。詳細は右のバナーをクリックいただくか、当社ホームページをご覧ください。

当資料のご留意点

- 当資料はレオス・キャピタルワークスが作成した販売用資料です。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料に記載されている当社が運用する投資信託の過去の運用結果等は、将来の結果等をお約束するものではありません。また、当該過去の運用結果等は、当該投資信託に投資をされた各投資家の利回りを表すものではありません。
- 当資料は作成日における信頼できる情報に基づき作成しておりますが、内容の正確性・完全性を保証するものではなく、また記載されている内容は予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり金利や相場等の変動により、元本欠損が生じる可能性があります。預金保険機構、貯金保険機構、および保険契約者保護機構の保護対象ではありませんが、証券会社を通じてご購入いただいた場合は投資者保護基金の保護対象となります。
- セミナー等で金融商品の説明等をすることや、お客様からのご依頼がある場合に金融商品に関連する追加の説明等をすることがあります。しかしながら、売買の推奨等を目的とした投資勧誘は行ないません。また、金融商品の案内、説明等はあくまで各お客様ご自身のご判断に資するための情報提供目的であり、金融商品の購入等を推奨するものでもありません。

ひふみワールドの特色

「ひふみワールド」は、マザーファンドを通じて信託財産の長期的な成長を図るため、次の仕組みで運用します。

① 日本を除く世界各国の株式等を主要な投資対象とし、成長性が高いと判断される銘柄を中心に選別して投資します。

② 株式の組入比率は変化します。

③ 株式の組入資産については、原則として為替ヘッジを行ないません。

④ 運用はファミリーファンド方式により、マザーファンドを通じて行ないます。

ひふみ投信の特色（ご参考）

「ひふみ投信」は、マザーファンドを通じて信託財産の長期的な成長を図るため、次の仕組みで運用します。

① 国内外の上場株式を主要な投資対象とし、市場価値が割安と考えられる銘柄を選別して長期的に投資します。

② 株式の組入比率は変化します。

③ 運用はファミリーファンド方式により、マザーファンドを通じて行ないます。

投資リスク

■ 基準価額の変動要因

- マザーファンドを通じて株式など値動きのある証券（外国の証券には為替リスクもあります。）に投資いたしますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。これらの運用により生じる利益および損失は、すべてお客様（受益者）に帰属します。
- 投資信託は預金等とは異なります。

■ 基準価額の変動要因となる主なリスク

株価変動リスク	国内外の株式を組み入れるため、株価変動の影響を大きく受けます。一般に株式の価格は、個々の企業の活動や業績、経済・政治情勢などの影響を受け変動するため、株式の価格が下落した場合には基準価額は下落し、投資元本を割り込むことがあります。
流動性リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性のもとでの取引が行なえない、または取引が不可能となる場合が生じることを流動性リスクといいます。この流動性リスクの存在により、組入銘柄を期待する価格で売却できない可能性があり、この場合、不測の損失を被るリスクがあります。
信用リスク	有価証券等の発行者や有価証券の貸付け等における取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想される場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となることを信用リスクといいます。投資した企業等にこのような重大な危機が生じた場合には、大きな損失が生じるリスクがあります。
為替変動リスク	外貨建資産については、当該通貨の円に対する為替変動の影響を受け、組入外貨建資産について、当該通貨の為替レートが円高方向に変動した場合には、基準価額が下落する要因となり、損失が生じることがあります。
カントリーリスク（エマージング市場に関わるリスク）	当該国・地域の政治・経済情勢や株式を発行している企業の業績、市場の需給等、さまざまな要因を反映して、基準価額が大きく変動するリスクがあります。なお、エマージング市場（新興国市場）への投資においては、政治・経済的不確実性、決済システム等市場インフラの未発達、情報開示制度や監督当局による法制度の未整備、為替レートの大きな変動、外国への送金規制等の状況によって有価証券の価格変動が大きくなる場合があります。

※基準価額の変動要因（投資リスク）は上記に限定されるものではありません。

収益分配金の仕組みについて

- 収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」の区分があります。
- 収益分配金支払い後の基準価額が、そのお客様（受益者）の個別元本と同額の場合または上回っている場合には、当該収益分配金の全額が「普通分配金」となります。普通分配金は、配当所得として課税対象になります。
- 収益分配金支払い後の基準価額がそのお客様（受益者）の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が「元本払戻金（特別分配金）」となります。当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額は普通分配金となります。
  元本払戻金（特別分配金）は、実質的に元本の一部払い戻しとみなされ、非課税扱いとなります。お客様が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、その後の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

お申込メモ

	ひふみワールド	ひふみ投信（ご参考）
商品分類	追加型投信／海外／株式	追加型投信／内外／株式
当初設定日	2019年10月8日	2008年10月1日
信託期間	無期限	
決算日	毎年2月15日（休業日の場合、翌営業日）	毎年9月30日（休業日の場合、翌営業日）
収益の分配	決算時に収益分配方針に基づいて分配を行ないます。 分配金再投資専用のため、分配金は自動的に再投資されます。	
購入単位	1,000円以上１円単位の金額指定で受け付けます。	
購入価額	ご購入のお申込受付日の翌営業日の基準価額（１万口当り）	
購入代金	販売会社が定める日までに販売会社にお支払いください。	
換金（解約）単位	１口以上の口数指定または１円単位の金額指定で受け付けます。	
換金価額	解約の請求受付日の翌営業日の基準価額（１万口当り）	
換金代金	請求受付日から起算して5営業日目から支払われます。	
購入・換金 申込受付不可日	ニューヨーク証券取引所または香港証券取引所のいずれかの休業日と同じ日付の場合には、申込受付は行ないません。	－
申込締切時間	購入・換金ともに、毎営業日の15時までに受け付けたものを当日のお申込みとします。	
課税関係	課税上は、株式投資信託として取り扱われます。配当控除の適用はありません。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。	

お客様にご負担いただく費用

◇ 直接ご負担いただく費用　：　ありません。
申込手数料・換金（解約）手数料・信託財産留保額　は一切ありません。
なお、「スポット購入」に際しての送金手数料はお客様負担となります。

◇ 間接的にご負担いただく費用　：　次のとおりです

	ひふみワールド	ひふみ投信（ご参考）
運用管理費用 （信託報酬）	信託財産の日々の純資産総額に対して年率1.628%(税込) の率を乗じて得た額	信託財産の日々の純資産総額に対して年率1.078%(税込) の率を乗じて得た額
	信託報酬とは、投資信託の運用・管理にかかる費用のことです。日々計算されて、投資信託の基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき信託財産から支払われます。	
監査費用	信託財産の純資産総額に対して年率0.0055% (税込) の率を乗じて得た額。（なお、上限を年間99万円 (税込) とします。）	信託財産の純資産総額に対して年率0.0055% (税込) の率を乗じて得た額。（なお、上限を年間88万円 (税込) とします。）
	当該上限金額は契約条件の見直しにより変更となる場合があります。 日々計算されて、毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。	
その他費用 ・手数料	組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料（それにかかる消費税）、先物取引・オプション取引等に要する費用、外貨建資産の保管等に要する費用、租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立て替えた立替金の利息など。これらの費用は、運用状況等により変動するものであり、予めその金額や上限額、計算方法等を具体的に記載することはできません。	

ファンドの関係法人

委託会社：　レオス・キャピタルワークス株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第1151号
加入協会　一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

受託会社：　(ひふみワールド)三菱UFJ信託銀行株式会社
(ひふみ投信)三井住友信託銀行株式会社

販売会社：　レオス・キャピタルワークス株式会社

各ファンドについてのお問い合わせ先
レオス・キャピタルワークス株式会社
コミュニケーション・センター
電話：03-6266-0123
受付時間（2020年4月6日より）：営業日の10時～16時
メール：cc@rheos.jp